

# 新しい生き方・働き方を考える

## — 柔能く剛を制す —

### ○新型コロナウイルスで迎えた転換期

「あんまり僕はそもそも林業者として生きていこうとか実は思っていないっていうか。」

ニセコに移住して6年目の澤田健人さん（以下健人さん）はこう語る。

現在、多くの日本人は義務教育を経て高校に進学し、さらに大学や専門学校に通う。その後社会に出るために就職活動を行って1つの企業に就職し、日々会社に通勤している人が多数を占める。近年は転職をする人が増加し、人生の中でいくつかの職を経験する人も増えているが、同時に複数の職についている人はあまりいない。私自身もまさに就職活動を行っているが、就職する企業は1つであると当たり前のよう考えていた。

ところが現在、新型コロナウイルスの蔓延により、日本のみならず世界が大きな転換期を迎えている。これは「働き方」にも大きな影響を及ぼしており、リモートワークやオンラインによる会議などが急速に普及している。また、会社に通勤する必要がないことやフレキシブルな労働形態がすすめられる企業もある中で、「地方移住」や空いた時間を「副業」にあてることを考える人がひそかに増加している。

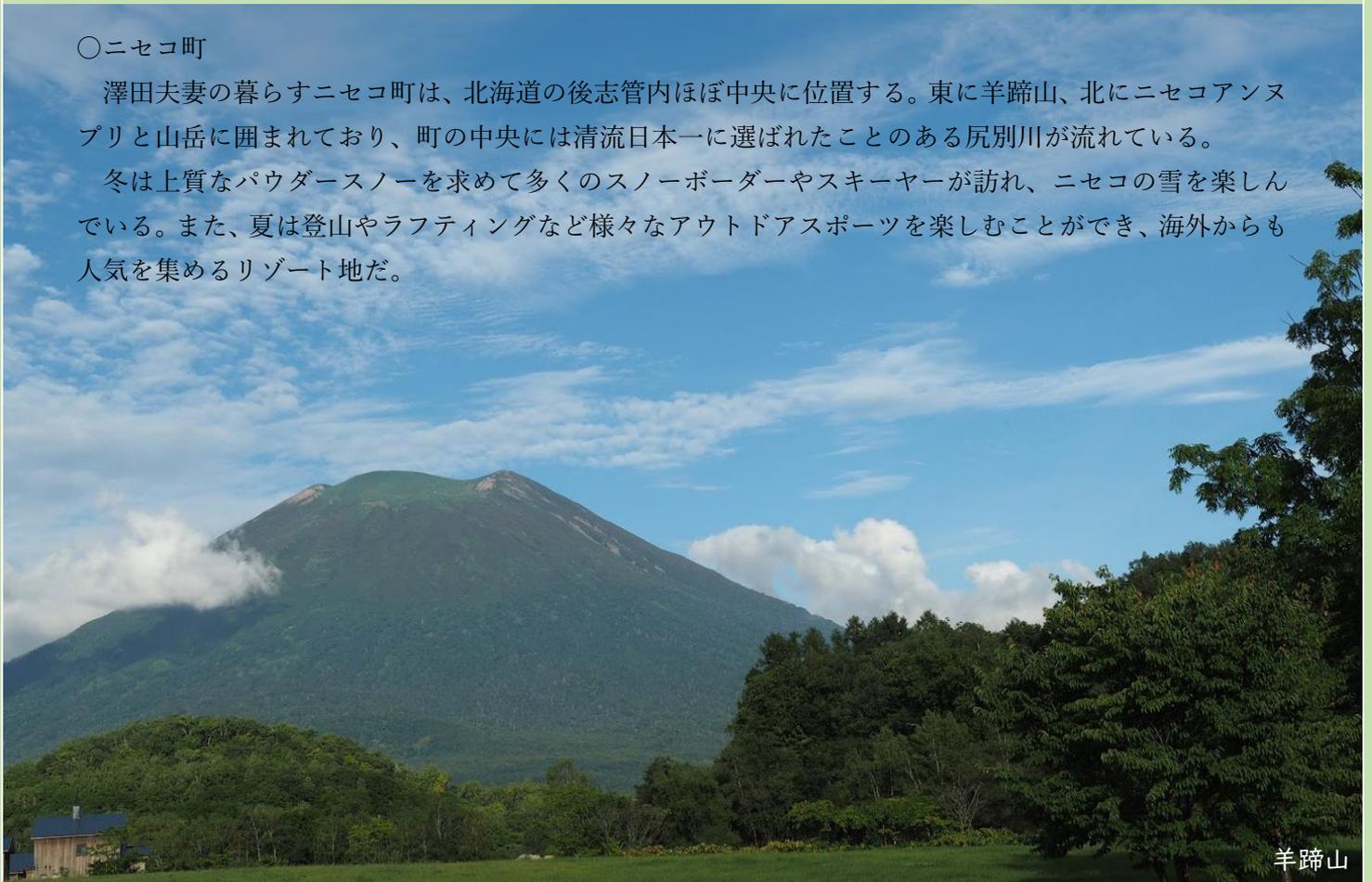
今回お話をうかがった澤田健人さん・佳代子さん夫妻（以下澤田夫妻）は、製造業、自伐型林業、美容師業、民泊などマルチに活動を行っており、ニセコ町で複数の職を日々こなして暮らしている。

転換期にある今だからこそ、澤田夫妻の生き方は私たちに新たな視点を与えてくれる。今回はニセコで暮らす澤田夫妻の話から、今後の生き方や働き方について考えたい。

### ○ニセコ町

澤田夫妻の暮らすニセコ町は、北海道の後志管内ほぼ中央に位置する。東に羊蹄山、北にニセコアンヌプリと山岳に囲まれており、町の中央には清流日本一に選ばれたことのある尻別川が流れている。

冬は上質なパウダースノーを求めて多くのスノーボーダーやスキーヤーが訪れ、ニセコの雪を楽しんでいる。また、夏は登山やラフティングなど様々なアウトドアスポーツを楽しむことができ、海外からも人気を集めるリゾート地だ。

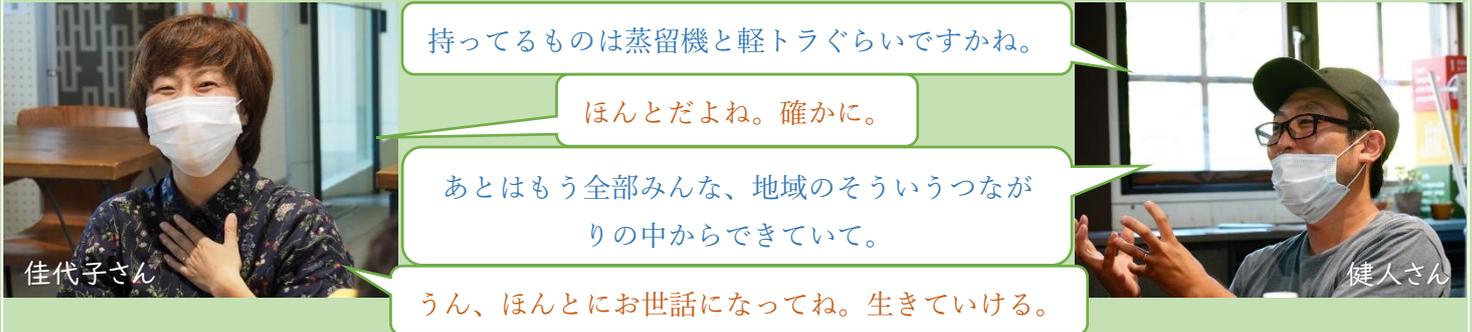


羊蹄山



## ○持っているものは蒸留機と軽トラぐらい

日々様々な仕事に取り組んでいる澤田夫妻であるが、「持っているもの」は少ないという。



移住者である澤田夫妻がニセコ町で「持っているもの」は少ないのかもしれない。しかし、ニセコ町で得た地域住民とのつながりはマルチに活動する澤田夫妻の大きな支えとなっている。

「自分は（森林を）持ってないですね。この人間でもないし。最初は自分でそういうやり方があるんですけど、土地持ってませんかって、やらしてくれませんかかってお願いをしに行ったんですね、持ってそうな人に。何人も回ってないんだけどやっぱり持ってて。で、どうぞって、ぜひやってくださいって。（健人さん）」

こうして、たとえ森林を所有していなくても、澤田夫妻はニセコ町で自伐型林業を行うことができています。また民泊は、健人さんが美容師として施術を行う際に、場所を借りている町の人が所有する別邸を、使用しない冬の期間に借りて行う。こうして、建物を所有していなくても民泊を行うことができています。これらはまさに、地域住民とのつながりによって実現している典型的なものである。

では、こういった地域の方々とのつながりはどのようにつくられていったのだろうか。澤田夫妻のお話をうかがう中で、地域おこし協力隊での活動によるところが大きいと感じた。

「（地域おこし協力隊は）役場に一応在籍していることになるので、役場情報が結構詳しくなったりとか、まちづくりに熱心な人がどういう人だとか、その人が何しているだとか、こういうグループがあるんだとかっていうのを知ることになるんですね。（中略）それでできることあればみたいな感じで、町の手伝いだとか、そういうのをしていると、こう人がつながってきて、山やりたいんですよって話とかも誰のどこ行ったらいいかっていうのが検討ついてきたし。（健人さん）」

地域おこし協力隊は移住者が積極的に地域に関わっていける制度である。行政機関に身を置きながらも、比較的自由に活動を行うことができる地域おこし協力隊は、都市から地方への移住を考えている人に今後より注目されていくのではないだろうか。

「あとは地域住民に本当に助けられたなって。僕が助けたって言うよりは応援してもらったなっていうのがすごく（地域おこし協力隊の）3年間を通してはあったかな。（健人さん）」

## ○剛と柔

様々な活動を行う澤田夫妻。その根底には「柔」があるという。

「まあ抽象的かもしれないけど、剛と柔みたいなのがあったら、やわらかい方で生きたいなみたいな。こいつ大丈夫？みたいな感じでなんかこう、それもありなんだなみたいなのは結構、自分の中では大事にしたい、理想としてそんな感じ。（健人さん）」

転換期にある今、様々な変化を身をもって感じる中で、澤田夫妻のお話をうかがった。まさに注目され

つつある「地方移住」や「副業」を実際に行っている澤田夫妻は、地域住民とのつながりを大切に、柔軟に変わっていくことを根底に、暮らしている。今後、社会がどのように変化していくかはわからないが、「柔能く剛を制す」ということわざにあるように、柔軟性のある人が剛強な人よりも能く生きる時代が来るのかもしれない。私たちは今、「柔」な生き方や働き方を選ぶことができるのだ。

澤田健人

青森県青森市出身

幼いころからスケートボードやスノーボードのビデオ

を見て育つ

新しいことをする際の踏み出しができ、行動が早い

澤田佳代子

茨城県取手市出身

患者さんの最後に寄り添いたいと看護師を目指す

30代になる頃、毎日スノーボードをしてみたいという

夢をかなえるために大学病院を辞める